

日本人学生むけムスリム文化アシミレーターの 改訂版を用いた異文化間教育の試み

中野祥子*・田中共子**

1. はじめに

近年、日本におけるムスリム¹留学生の増加に注目が集まっている。ムスリムは、イスラームの教えに基づいた特有の価値観や行動様式を持っており、それが日本人との大学生活の中で文化的差異として、両者に困難感をもたらす場合がある(Nakano, Okunishi & Takana, 2015; 中野・田中, 2017)。日本人にとって馴染みのないイスラーム教の文化的価値観や行動の例として、1日5回の礼拝習慣、年に一度、定められた時期に一ヶ月間行う断食習慣、豚およびイスラーム法に則らない方法で処理された肉、アルコール、の摂取の禁止、賭け事の禁止などがある(後藤・山内, 2003)。その他にも、女性は、顔、手首、足首から先以外の全身を、家族以外の異性の前で隠すことが望ましいとされており、家の外では頭髪を隠すスカーフを着用していることが一般的である。このような教義に基づいた特有の価値観や行動様式を持つ彼らと共に学生生活を送るには、日本人側も彼らを持つ文化的価値観や規範を理解しながら、同時に固定観念にとらわれない柔軟な思考を備えていく必要があるだろう。

我々はこれまでに、ムスリム文化学習の教材として、「日本人学生むけムスリム文化アシミレーター」を試作し、回答者の反応と教育効果を検討した(中野・田中, 2015)。文化アシミレーターとは、文化的特徴の把握と柔軟な思考の獲得を目指した文化学習法である。具体的な事例を想像しながら文化的知識を学べるとともに、文化摩擦の原因を柔軟に捉える訓練ができる教材として知られている。文化アシミレーターの教材は、①文化摩擦を題材にしたエピソードを記述した教示文と、②エピソードにある摩擦の原因を問う質問、③その質問に対応する4つ選択肢、④その解説、から成る(Fiedler, Mitchell & Triandis, 1971)。摩擦の原因についての4つの選択肢は、それぞれ異なる解釈に基づいて作られている。そのため、学習者は与えられた選択肢からトラブルの原因について、様々な可能性を考えて、題材となっている文化の価値観を学ぶことができる(三角, 1997)。

中野・田中(2015)では、ムスリム文化を題材とした、「ムスリム文化アシミレーター」を作成した。つまり、ムスリムと日本人との交流場面における文化的摩擦に関する具体的なエピソードを提示し、その原因について考えてもらうというものである。この「ムスリム文化アシミレーター」の学習者においては、ムスリムの文化的知識および、異文化摩擦時の柔軟な発想の獲得、ムスリム

* 山口大学大学機構留学生センター・助教

** 岡山大学大学院社会文化科学研究科・教授

¹ イスラーム教徒のこと。

留学生との交流意欲の向上等、肯定的な反応が見られた。一方で、課題も明らかになった。例えば、問いについて熟考せずに、選択式試験の要領で選択肢の言い回しから正解を判断する者もみられた。また、宗教規範の差がトラブルの原因になり得るという気づきを促すことができた反面、葛藤的文化的観へ固執する可能性もうかがえた。これらの結果を受けて、中野・田中（2015）で作成した「ムスリム文化アシミレーター」は、学習者により質の高い学びを与えるために、さらなる改良が必要と考えられた。

2. 本研究の目的

本研究では、「ムスリム文化アシミレーター（中野・田中，2015）」について、上記の問題を改善し、より多様な視点から問いについて熟考してもらえるようにする意図から、初版の教示文や選択肢の表現を調整した改訂版の作成を試みた。本稿の目的は、ムスリム文化アシミレーターの改訂版を用いて、日本人学生を対象に異文化間教育を試みた際の反応を分析し、報告することである。

3. 方法

3. 1. 調査協力者

西日本の国立Y大学の日本人学生である。異文化心理学の講義を受講し、セッション当日に出席していた46名のうち、遅刻や早退により回答に不備があったものを除いた44名（男性12名、女性32名）の回答を分析の対象とした。44名とも日本生まれ日本育ちで日本語話者であった。31名が1ヶ月以上の留学経験があった。そのうち3名は欧米圏への留学時にムスリムと交流したことがあるという。つまり、ムスリムとの交流経験がない者が41名いた。なお、本研究の協力者の中に、中野・田中（2015）で作成したムスリム文化アシミレーターを使用したことがある者はいなかった。

セッションの開始前に、心理教育的学習プログラムの開発を考えていること、協力しなくても成績には影響しないこと、集めたデータは研究目的以外には使用しないこと、プライバシーは保護されることを説明し、全員から承諾を得た。

3. 2. 教材

ムスリム文化アシミレーター（中野・田中，2015）をもとに、教示文および選択肢の表現や題材の提示順を改訂した「ムスリム文化アシミレーター（改訂版）」を作成した（付録1-5）。すなわち、エピソード中に留学生がとった不可解な行為の理由に関して、多様な視点からの熟考を促すため、表現の抽象度を上げ、解釈に幅を持たせ易くした。修正の例を挙げるなら、例えば【場面4の露出の制限】について、文化差に起因する選択肢の表現を、「Eさんはイスラーム教徒で、いつもは頭にヒジャブというスカーフをかぶっているが、自宅での女子会だったため、スカーフを外した軽装になっており、その姿で写った写真を、facebookを通じて男性に見られては困ると思ったか

ら」という表現から、「スカーフを外した姿で写真に写りたくないと思ったから」という表現に改訂した。改訂前の表現は、説明的になっていたことが懸念された。なぜなら、この選択肢を選んだ学習者から、選択の理由として「ムスリムの露出の制限については詳しく知らなかったが、やたらと具体的に書かれているので正解はこれだろうと思った」とのコメントが述べられていたからである。そこで、改訂版では、各選択肢の表現の長さに大きな差が出ないように配慮したり、解説的な表現にならないように注意を払った。選択肢を選ぶことに集中するのではなく、それが原因であると解釈した理由や根拠について幅広く、自由に発想してもらうことが大事であると考えたからである。

文化アシミレーターの課題場面は、ムスリム留学生と日本人学生との交流におけるトラブルの事例5題（場面1: 飲食の制限、場面2: 断食習慣、場面3: 賭け事の禁止、場面4: 露出の制限、場面5: 信仰の度合いの違い）から構成される。課題場面として扱うトピック自体は、以前のものより変更していないが、提示する順番、すなわち課題に付した番号を変えた。課題を出題する順番が、回答の選択に及ぼす影響を最小限に抑えるように考え、改訂を行った。

文化摩擦の原因を解釈する4つの選択肢（①個人のパーソナリティーへの帰属、②母国と日本との文化差への帰属、③正確な知識に基づく宗教規範の差への帰属、④誤った知識に基づいた宗教規範の差への帰属、の4つの視点）が順不同に用意されている。学習者は文化的差異に起因するトラブルの原因を推測し、選択肢から選ぶ。なお、場面のタイトルは、本論文の執筆において便宜上つけたものであり、学習者には伏せてある。

3. 3. 手続き

セッションは、①イントロダクション、②ムスリム文化アシミレーター（改訂版）への回答、③グループディスカッション、④解説、⑤感想の記述と共有、⑥全体のまとめ、の順で行った。

イントロダクションでは、研究主旨とプライバシーの保護について説明し、協力依頼を行った。次にセッションの進め方について説明を行った。教育の狙いは学習者に伏せたままで、心理教育の教材開発のため、留学生と日本人との交流に関するクイズの試作版に答えてもらい、率直な意見や感想を聞きたいと伝えた。

「ムスリム文化アシミレーター（改訂版）」については、1ページに1課題となるように印刷し、一冊に綴って配布した。第一著者がファシリテーターとなって、セッションの進行を行った。セッション中は、ファシリテーターの指示に従って、冊子のページをめくるよう伝えた。

まずは、アシミレーターの課題について個人で回答し、その後にグループで回答の解釈についてディスカッションをしてもらった。アシミレーター回答の際の注意として、この文化アシミレーターは正答率を試したり他人と競ったりするものではないことを説明し、まずは人と相談せずに思った通りに答えて欲しいと頼んだ。学習者の反応を詳細に知るため、文化アシミレーターを回答した際に、その選択肢を選んだ理由を自由記述欄に書いてもらった。

グループディスカッションでは、5名から6名の小グループを作り、グループ内でアシミレーターの課題場面に対して、自らが選んだ選択肢とそれを選んだ理由を共有してもらい、課題場面のトラブルの原因について話し合ってもらった。グループでの話し合いの後、クラス全体への共有として、各グループの意見を全体に発表し、紹介してもらった。

文化アシミレーターの題材となったトラブルの原因について解説する際は、文化差への原因帰属を反映した選択肢を示し、もともなった実際のエピソードと、文化的要素に関する正確な情報を与えた。ただし、その選択肢が唯一の正解というわけではなく、他のことが原因である可能性もあること、全てのムスリムが日本人との交流において、このような経験をするわけではなく、これはよくある事例の一つに過ぎないことを説明した。また、「ムスリム留学生」と一括りに言っても、地域差や個人差もあり、宗教的制約との向き合い方は様々であることを言及した。

解説の後、文化アシミレーターの感想を尋ねる意図から、アシミレーターの難易度や新たに学んだこと、回答をしてみた感想について自由記述を求めた。個人での記述が終わったことを確かめてから、全体への共有として、インタビュー形式でランダムに指名し、全体に向けて、このセッションで学んだことや感じたことを述べてもらった。

最後に、まとめとして、この文化アシミレーターの教育上の狙いが、ムスリム文化の理解と、トラブルへの原因帰属の柔軟化にあることを伝えた。つまり、異文化をもつ者と何か問題が起きた場合に、その原因を自らの常識の範囲内でのみ判断したり、相手の性格のせいと考えたりするのではなく、文化差の面からも含めて、原因帰属を多様な視点から柔軟にするためにクイズ形式の学習を考案したと説明した。

3. 4. 分析

文化アシミレーターの回答の分布を場面ごとに集計した。回答の理由および全体を通しての感想の自由記述は、KJ法（川喜田，1967）を用いて、類似した内容をまとめ、整理していった。

4. 結果と考察

学習者はトラブルの原因帰属を、性格や個人の好み、その時の状況、出身国の文化差、宗教規範の差など、多様な視点から柔軟に推測していた（表1）。【課題1:飲食の制限】、【課題2:露出の制限】、【課題3:信仰度の違い】の3題では、宗教規範の差異に帰属する選択肢と誤った情報に基づく選択肢の選択がほぼ半数ずつであった。【課題4:断食】と【課題5:賭け事】の2題では、4つの選択肢に分布が分かれた（表1）。回答者の半数は宗教規範がトラブルの原因とみたが、残る半数は多様な解釈をとっていた。全ての選択肢について熟考した上で、消去法的に選んだとする者もみられた。これらから、アシミレーターに回答するという行為自体が、トラブルの原因について、少なくとも4つ以上の視点から考える機会になっていたことを指摘できる。

表1 文化アシミレーターの各場面における回答の分布

場面1 (飲食)		場面2 (断食)		場面3 (賭け事)		場面4 (露出)		場面5 (信仰度合い)	
選択肢	人数 (%)	選択肢	人数 (%)	選択肢	人数 (%)	選択肢	人数 (%)	選択肢	人数 (%)
①状況	0 (0.0)	①状況	6 (13.4)	①状況	5 (11.4)	①黙宗教	2 (4.5)	①個人差	0 (0.0)
②個人差	0 (0.0)	②文化差	4 (9.1)	②個人差	1 (2.3)	②個人差	0 (0.0)	②宗教差	36 (81.9)
③宗教差	34 (77.3)	③個人差	6 (13.6)	③黙宗教	16 (36.4)	③宗教差	42 (95.0)	③個人差	7 (16.0)
④文化差	10 (22.7)	④宗教差	28 (63.6)	④宗教差	22 (50.0)	④個人差	0 (0.0)	④黙宗教	1 (2.3)

以下に、課題場面の回答の分布と選択の理由をみていく。課題1は、イスラーム教の飲食の制限に起因する困難のエピソードであった。そのときの状況と個人差に起因する選択肢①と②を選んだ回答者はいなかった(表2)。宗教的戒律を理由とする選択肢を選んだ者が7割を超えていた。選択理由をみると、エピソードに出てくるサウジアラビア人留学生がイスラーム教徒である可能性を考えて、この選択肢を選んだ者が大半を占めていることがわかる。その他には、食べられない理由を宗教的戒律ではなく、アレルギーやベジタリアン、国の決まりなど、宗教以外のことに結びつける場合もわずかにみられた。正解の確信はないが、ほかの選択肢を吟味して残ったものがこの選択肢であったという回答者もいた。加えて、出身国の文化背景が異なることを理由に挙げた回答者も2割程度いた。この場合は、日本という不慣れた環境や、特殊なイベントに戸惑う留学生像を思い浮かべていた。

表2 文化アシミレーター【課題1】の回答の分布および選択の理由

【場面1：飲食の制限】		回答者数 (%)
選択肢①	お菓子パーティーだと聞いたので、パーティーの前に夕食を食べてきたため、お腹がいっぱいだったから	n=0 (0.0%)
選択理由	-	
選択肢②	ダイエット中だったから	n=0 (0.0%)
選択理由	-	
選択肢③	お菓子の中に食べられない成分が入っていたから	n=34 (77.3%)
選択理由	イスラーム教徒は宗教的に食べられない物があると聞いたことがあるから[25]、サウジアラビア出身なのでイスラーム教徒の可能性があるので[14]、消去法[4]、ベジタリアンなら動物性の物が食べられないから[2]、アレルギーで食べられない物があるから[4]、困った表情なので言いにくい理由だと思うから[2]、何かわからないけど国によって食べてはならないものがあるかもしれないから[2]	
選択肢④	お菓子ばかりをたくさん食べるというパーティーに馴染みがなく、抵抗があるから	n=10 (22.7%)
選択理由	消去法[6]、国の文化の違いで、パーティーでお菓子を食べるのが不思議に感じたから[4]、お菓子を食べる習慣がないから[1]	

注/選択肢ごとに回答者の割合と、その選択肢を選んだ理由を記した。丸数字は選択肢、編みかけ数字は正しい宗教知識に基づく選択肢、[]内は記述数。「消去法」は、全選択肢を吟味して、あり得なさそうなものを消していった結果、残ったもの。

課題2は、4つの選択肢に回答が分かれた(表3)。宗教的戒律に起因する選択肢④を選んだ者が最も多く、6割を占めていた。断食習慣については、予備知識があった者もいたようである。母国のルールにより、昼食を食べないと推測した者もいた。その他には、選択肢②を選び、食文化の違いで料理が口に合わないと推測した者もいた。加えて、個人的に嫌われているから食事に断られたのだと推測し、選択肢①を選んだ者も一定数見られた。選択の理由の記述をみると、何度も誘いを断ってくることや、理由をはっきり言わないことから、個人的な好意の有無に理由があると推測したことがわかる。

表3 文化アシミレーター【課題2】の回答の分布および選択の理由

【場面2：断食習慣】		回答者数 (%)
選択肢①	Fさんは、あなたのことが好きではなくなったため、距離を置きたくなったから	n=6 (13.6%)
選択理由	理由：嫌われているから[5]、消去法[2]、何回も断られるから[2]、信仰が理由なら言うはずだから[1]	
選択肢②	可能な限り昼食を抜く方が良いとされる価値観を持っているのに、日本に来てから昼食を食べる習慣がついてしまったことを気にしていたから	n=4 (9.1%)
選択理由	国の習慣の違い[3]、消去法[2]	
選択肢③	Fさんはずっと言い出せなかったが、本当は日本の料理が口に合わなかったから	n=6 (13.6%)
選択理由	宗教的に禁止されている成分が入っていたから[4]、日本食が口に合わないことを言えないから[2]、断食が理由なら言うはずだから[1]、うどんだけが好きだから[1]	
選択肢④	断食をしていたから	n=28 (63.6%)
選択理由	宗教的な断食中だったから[14]、こういうことを聞いたことがあるから[8]、消去法[6]、母国には昼食を食べないというルールがあるから[3]、何か宗教と関係がありそうだから[1]	

注/選択肢ごとに回答者の割合と、その選択肢を選んだ理由を記した。丸数字は選択肢、編みかけ数字は正しい宗教知識に基づく選択肢、[]内は記述数。「消去法」は、全選択肢を吟味して、あり得なさそうなものを消していった結果、残ったもの。

課題3は、宗教規範にまつわる正しい知識をもとに作られた選択肢④と、宗教規範にまつわる誤った知識から作られた選択肢③を選んだ者が多かった(表4)。

表4 文化アシミレーター【課題3】の回答の分布および選択の理由

【場面3：賭け事の禁止】		回答者数 (%)
選択肢①	自分のせいで、歓迎会が飲食なしのビンゴゲーム大会になったのだと責任を感じており、自分が参加しなければ、皆が好きな物を食べられると思ったから	n=5 (11.4%)
選択理由	理由：自分のせいで皆が飲めないのは申し訳ないはず[3]、GさんにはGさん流の礼儀があるから[1]、イラン人なのでムスリムの可能性があるから[1]、自分が飲めないことが申し訳ないから[1]、特別扱いされることが寂しかったから[1]	
選択肢②	新入生を歓迎するための会なのに、新入生の自分も参加費を払って、ビンゴゲームをするのはおかしいと思ったから	n=1 (2.3%)
選択理由	消去法[1]	
選択肢③	1等の景品である魚類の中にマグロやカツオ等の赤身魚が含まれていて、食べられないから	n=16 (36.4%)
選択理由	ほしい景品がなかったから[5]、消去法[4]、そんな戒律がありそうだから[5]、外国人は生魚が苦手だから[4]、当たっても嬉しい顔ができないから[3]、魚アレルギーだから[2]、好き嫌い[2]、魚も食べないと決めているから[1]	
選択肢④	このビンゴゲームは賭けごとみたいで、やりたくないから	n=22 (50.0%)
選択理由	賭け事をしてはいけないというイスラムの戒律があるから[10]、消去法[8]、出身国で賭け事が禁止されているから[6]、賭け事が嫌いな性格だから[3]、賭け事の禁止について聞いたことがあるから[2]、1等2等という言葉に馴染みがなくて驚いたから[1]、単純な不満ならもっと早く申し出ているはずだから[1]	

注/選択肢ごとに回答者の割合と、その選択肢を選んだ理由を記した。丸数字は選択肢、編みかけ数字は正しい宗教知識に基づく選択肢、[]内は記述数。「消去法」は、全選択肢を吟味して、あり得なさそうなものを消していった結果、残ったもの。

選択肢③を選んだ理由として、「そういった宗教的戒律がありそうだから」という理由がみられ、飲食の制限は宗教的戒律に結びつきやすい可能性が示唆される。その他には「外国人は生魚が苦手だから」、「魚アレルギーだから」、「好き嫌い」など、ビンゴゲームの景品に焦点を当てて「食べられない」ことが理由であると解釈する記述がみられた。賭け事に抵抗があるという解釈をしている回答者は、賭け事の禁止は宗教的戒律あるいは出身国の文化によるものと認識していた。「賭け事が嫌いな性格だから」、「馴染みのない言葉に驚いたから」、と推測する者も僅かにい

た。また、選択肢①を選んだ理由の記述からは、賭け事よりも、飲食にまつわる宗教的な制限がトランプルの背景にあると察していることがわかる。

課題4に対する回答は2つの選択肢に分かれた(表5)。イスラーム教の露出の制限に焦点を当てたエピソードであったが、飲食の制限を理由とした選択肢①を選ぶ回答者が少数いた。他には、露出の制限に焦点を当てた選択肢③が選ばれていた。選択の理由をみると、「SNSを通して頭髪を異性にみられると困るから」という記述が大半を占め、こちらが意図していた解釈と一致していた。ただし、宗教的規範の違いに原因を見出したものの「写真を撮ってはいけない宗教かもしれない」というような、誤った解釈に基づくものもあった。

表5 文化アシミレーター【課題4】の回答の分布および選択の理由

【場面4：露出の制限】		回答者数 (%)
選択肢①	写真に日本の肉料理が写ってしまって、写真を見た人に、それを食べたと思われなくなかったから	n=2 (4.5%)
選択理由	誰かに写真を見られたくないから[1]、何か宗教的な戒律に触れるのではないかと思ったから[1]	
選択肢②	留学中は遊ばずに勉強するように親から言われていたため、女子会の写真を親や家族に見られたくなかったから	n=0 (0.0%)
選択理由	-	
選択肢③	スカーフを外した姿で写真に写りたくないと思ったから	n=42 (95.0%)
選択理由	宗教的に男性に髪や肌を見せたくないため、facebookを通じて見られてしまうと思ったから[22]、何か宗教的なルールがあるかも[4]、プライバシーの問題で顔をネットにあげたくないから[3]、マレーシアにはイスラーム教徒が多いためEさんもイスラーム教徒の可能性があるから[1]、消去法[1]、イスラーム教には写真を撮ってはいけないという決まりがあるかもしれないから[2]	
選択肢④	Eさんは女子会につきあいはしたが、あまり羽目を外すことが好きではなかったから	n=0 (0.0%)
選択理由	-	

注/選択肢ごとに回答者の割合と、その選択肢を選んだ理由を記した。丸数字は選択肢、編みかけ数字は正しい宗教知識に基づく選択肢、[]内は記述数。「消去法」は、全選択肢を吟味して、あり得なさそうなものを消していった結果、残ったもの。

課題5は、3つの選択肢に分布が分かれた(表6)。

表6 文化アシミレーター【課題5】の回答の分布および選択の理由

【場面5：信仰の度合いの違い】		回答者数 (%)
選択肢①	Bさんは、その日、他に用事があったから	n=0 (0.0%)
選択理由	-	
選択肢②	同じイスラーム教徒でも、ソフトドリンクを注文して飲み会に参加する人や、お酒の匂いや酔っている人を見るもの嫌だという人など、人によって飲み会への参加の判断が異なるから	n=36 (81.9%)
選択理由	国や個人によって異なると思うから[25]、消去法[6]、アルコールに対して認識の差があるから[3]、実際にそういう外国人と接したことがあるから[1]、煙草をどこまで許せるかという問題に似ているから[1]	
選択肢③	Bさんは、新年会などの、お酒を使って親睦を深める場に興味がなかったから	n=7 (16.0%)
選択理由	消去法[3]、個人差があると思ったから[1]	
選択肢④	イスラーム教では、親睦を深めることを目的としたパーティーの場合は、禁酒を休んでもよいと認められているため、CさんとDさんは新年会を親睦会だと捉えて参加したが、Bさんは親睦の場であるとは思っていなかったから	n=1 (2.3%)
選択理由	Bさんは何か別に個人的に来たくない理由があると思ったから[1]、そういうルールがあるかもしれない[1]	

注/選択肢ごとに回答者の割合と、その選択肢を選んだ理由を記した。丸数字は選択肢、編みかけ数字は正しい宗教知識に基づく選択肢、[]内は記述数。「消去法」は、全選択肢を吟味して、あり得なさそうなものを消していった結果、残ったもの。

最も多く選ばれたのは、こちらが想定して用意した選択肢②であった。これは、信仰の度合いは個人によって異なるというものである。選択の理由をみると、回答者がムスリムについて、国や地域、個人によってその特徴が異なることを理解していることがうかがえる。その他の選択肢として、お酒を介した親睦会に興味がなかったという個人の好みに焦点を当てた選択肢③を選んだ者がいた。選択の理由は消去法によるものが多かった。選択肢④は、宗教にまつわる誤った知識に基づく選択肢であったが、1名が選択していた。

最後に、感想の記述においては、トラブルに対する原因帰属の柔軟化の認識と、ムスリム文化に対する興味と理解の深まりの認識がみられた（表7）。

表7 全体を通しての感想

カテゴリー	コメント数	割合
<原因帰属の柔軟化>		67.9%
・トラブルの原因を柔軟に捉えることの重要性	15	
・文化や宗教の違いがトラブルの原因になることもあるという気づき	11	
・他者の意見を聞いて視野が広がった	11	
・宗教以外の原因も考えることの重要性への気づき	11	
・柔軟に原因帰属ができるようになったという実感	8	
・理由を決めつけてはいけないという気づき	6	
・相手の立場になって考えることの大切さの気づき	5	
・自分の視野の狭さへの気づき	4	
・一人の人間であるという共通点に目を向けることの大事さ	4	
・相手の話を聞いてみなければ、わからないという気づき	4	
・予備知識を持つことの大事さへの気づき	3	
・自分の価値観が当たり前ではないという気づき	3	
・異文化に関心を持つことの大事さ	3	
・想定外の理由で相手が困っていることがあるという気づき	3	
<ムスリム文化への興味と理解の深まり>		43 32.1%
・ムスリム文化に関する知識の獲得	10	
・同じイスラム教徒でも個人差があるという発見	10	
・今後ムスリムとの実際の関わりに役立つ	9	
・今後他の場面で応用できそう	6	
・イスラム教について理解することの大切さへの気づき	3	
・ムスリムとの関わり方を学んだ	3	
・イスラム教徒との交流への動機付けの高まり	2	

コメント数：134, $M=3.04$, $SD=1.11$ 網掛けはセッションの学びの効果として想定していたカテゴリー。

総じて、イスラーム教の教義への理解や、宗教規範の差も誤解の種になることへの気づきを得ていた。そのうえで、トラブルや誤解の原因が必ずしも宗教的な差異によるものではなく、母国の文化やパーソナリティの差という視点も含めて、柔軟に捉えることが必要だという発想も学んでいた。多様な視点から問いについて熟考し、解釈の幅をより広げる手がかりを得ていたと考えられ、今回の改訂版アシミレーターにこの点に関する教育的効果を読み取ることができよう。加えて、ム

スリム留学生と日本人との具体的なエピソードを題材にして学んだことで、ムスリム留学生との関わり方を学んだり、交流の動機が芽生えたりしていた。また、ムスリムの中でも個人差があることに気がつき、自身が持っていたムスリムに対するステレオタイプからの脱却もうかがえた。改定前の文化アシミレーター（中野・田中，2015）では、ムスリム文化に関する知識の獲得はみられたものの、ややステレオタイプの知識を定着させてしまったかもしれないという懸念があった。しかし、今回の改訂版ではその点を克服できたといえよう。また、改定後のアシミレーターでは、改定前と比べて全体の感想の記述に「原因帰属の柔軟化」に関する記述が占める割合が増えた。文化アシミレーターという学習法が、より効果的に機能したと言えよう。

5. 今後の課題

本研究で新たに試作した「ムスリム文化アシミレーター（改訂版）」では、選択肢を選んだ理由に多様性がみられた。正解なる選択肢を選ぼうとするよりも、より自由な発想で柔軟に原因について思考できたといえよう。今後の課題は、エピソードの数を増やし、練習できる題材を充実させることである。また、本研究では、ムスリムの宗教的価値観に特化した題材のみを扱ったが、他の文化に焦点を当てたものと混ぜて使うことで、より柔軟に原因を推測することができよう。

<引用文献>

- Fiedler, F. E., Mitchell, T. & Triandis, H.C. (1971) . The culture assimilator: An approach to cross-cultural training. *Journal of Applied Psychology*, 55 (2) ,95-102.
- 後藤晃・山内昌之 (2003) .イスラームとは何か 新書館
- 川喜田二郎 (1967) .発想法—創造性開発のために 中公新書
- Nakano, S., Okunishi, Y. & Tanaka., T. (2015) . Interpersonal Behavioral Difficulties of Muslim Students in Japan During Intercultural Contact Situations. in Rogelia,P. (ed.) *Proceeding of the 10th Asian Association of Social Psychology Biennial Conference ‘Enhancing Quality of Life through Community Integrity and Cultural Diversity: Promoting Indigenous, Social and Cultural Psychology’* , (Yogyakarta: Gadjah Mada University Press) , 154-170.
- 中野祥子・田中共子 (2015) . 日本人学生を対象としたムスリム文化アシミレーターを用いた異文化間教育の試み *留学生教育*, 20, 83-92.
- 中野祥子・田中共子 (2017) 日本人ホストはムスリム留学生とどのように対人関係を築くのか *多文化関係学研究*, 14, 59-77.

<付録>

付録1. ムスリム文化アシミレーター（改訂版）【場面1: 飲食の制限】の教示文、選択肢および解説

【場面1】

あなたは、ジュースとお菓子を持ち寄って、研究室で打ち上げパーティーをすることになりました。ポテトチップスやチョコレート、ゼリーなど、美味しそうなお菓子がたくさん集まりました。パーティーが始まり、みんな好きなお菓子を食べながらわいわいと楽しそうに過ごしています。しかしながら、サウジアラビア人留学生のAさんは、何も食べようとはしません。あなたが「おいしいよ」と勧めても、「結構です。」と困ったような表情で断ってきます。Aさんはなぜ、何も食べようとしなかったのでしょうか。

-
- ①お菓子パーティーだと聞いたので、パーティーの前に夕食を食べてきたため、お腹がいっぱいだったから
②ダイエット中だったから
③お菓子の中に食べられない成分が入っていたから
④お菓子ばかりをたくさん食べるというパーティーに馴染みがなく、抵抗があるから
-

どの選択肢の可能性もあります。ちなみに、サウジアラビアはイスラム教を国教としている国です。そのため、Aさんがイスラム教徒である可能性が考えられるでしょう。イスラムの教義に注目して考えるならば、選択肢③が当てはまります。

イスラム教では、アルコールや豚肉、肉食動物、イスラム教の決まりに則って処理されていない肉の飲食が禁じられています。お菓子を食すること自体は禁止されていないのですが、日本で売られているお菓子には、イスラム教で禁止されている成分が入っていることが多々あるのです。例えば、今回の事例で言えば、ポテトチップスの味付けに使われたりするコンソメには、牛肉や鶏肉の出汁が使われていますし、ゼリーに含まれるゼラチンは、豚の皮や骨を利用して生産されています。チョコレートに使われる乳化剤も動物由来のものがあります。目には見えないところで実は、豚肉やイスラム教で認められていない肉の成分が入っていることが多いのです。在日ムスリムの方は、お菓子などを購入する際も、成分表示を見て動物由来の成分が入っていないかを確認します。成分がよく分からない場合は、生産している会社や工場に電話をして問い合わせる方もいるようです。

付録2. ムスリム文化アシミター (改訂版) 【場面2:断食習慣】の教示文、選択肢および解説

【場面2】

あなたは、同じサークルのインドネシア人留学生のFさんと一緒に、頻繁に食事をとります。Fさんに日本の料理を紹介することが、あなたの楽しみのひとつです。ある日、いつものようにFさんを誘ったのですが、「他の皆さんと行ってください」と断られました。気を取り直して、翌日も誘ってみました。Fさんは断られてしまいました。しばらくあけて、一週間後にもう一度誘ってみました。Fさんは断られてしまいました。Fさんと友達になってから2ヶ月程経ちますが、このようなことは初めてです。もう2週間ほど昼食を共にしていません。放課後のサークルを終えた後、サークルのメンバーと一緒にうどんを食べに行くことになった時は来たのに、あなたとの昼食の誘いは断ります。Fさんはなぜ、あなたとの昼食を断るようになったのでしょうか？

- 課題場面**
- 選択肢**
- ①Fさんは、あなたのことが好きではなくなったため、距離を置きたくなったから
 - ②可能な限り昼食を抜く方が良いとされる価値観を持っているのに、日本に来てから昼食を食べる習慣がついてしまったことを気にしていたから
 - ③Fさんはずっと言い出せなかったが、本当は日本の料理が口に合わなかったから
 - ④断食をしていたから

解説

どの選択肢の可能性もあります。ちなみに、インドネシアはイスラム教徒の人口が世界最大とも言われている国です。もちろん、インドネシアにはイスラム教以外の宗教を信仰している方も多数いらっしゃるのですが、Fさんが必ずしもイスラム教徒とは限りません。しかし、もしFさんがイスラム教徒である可能性を考えるなら、今回の事例の解釈は④の可能性が高いです。

イスラム教では、神の恵みに感謝するために、断食をする習慣があります。具体的には、年に一度、ラマダーン月と呼ばれる月に、一ヶ月間、日が昇っている間、断食を行うことが定められています。このラマダーン月は、太陰暦に基づいて決められているため、毎年11日ずつ早まっています。イスラム教徒の方々は、日中は食べ物も水も飲食しませんが、日が沈んでから、お祈りをし、皆で集まって神への感謝の気持ちを持って食事を楽しめます（この断食にも病気の方や妊婦など、断食を免除される方もいますし、どれくらい断食をするかは個人差があります）。宗教的な理由で食べないこともあるということを知っておくことで、留学生と交流する際に、相手がムスリムである可能性にも目を向けて柔軟に対応できるかもしれません。なお、選択肢②のような価値観は、イスラムの教義にはありません。しかし、断食をする月に備えて体を馴れさせるために、あえて普段の日に昼食を抜いたり、教えに則って週に数回、昼食を抜いたりしている方もいます。

【場面3】

課題
場面

サークルで新生を歓迎する会を開くことになりました。新生であるイラン人留学生のGさんがお酒を飲めないようです。そこで、飲み会の代わりに、参加費として一人500円ずつ出し合って景品を買い、ビンゴゲーム大会をすることにしました。1等賞は日本海産地直送のお魚セットです。その他には、文房具やお菓子の詰め合わせなど、5等まで景品が用意されました。その説明を聞いて、皆は1等を狙ってわくわくしながらビンゴゲームが始まるのを待ちました。そのとき、Gさんが「やっぱり私はこの会には参加しません」と言い出しました。なぜ、Gさんは急に参加しないと言い出したのでしょうか。

選択
肢

- ①自分のせいで、歓迎会が飲食なしのビンゴゲーム大会になったのだと責任を感じており、自分が参加しなければ、皆が好きな物を食べられると思ったから
- ②新生を歓迎するための会なのに、新生の自分も参加費を払って、ビンゴゲームをするのはおかしいと思ったから
- ③1等の景品である魚類の中にマグロやカツオ等の赤身魚が含まれていて、食べられないから
- ④このビンゴゲームは賭けごとみたいで、やりたくないから

解説

どの選択肢の可能性もあります。ちなみにイランは、（正式名称：イラン・イスラム共和国）はその名の通り、イスラム教を国教としている国です。それを考えると、Gさんがイスラム教徒の可能性が考えられるでしょう。そこに着目するならば、今回の事例は選択肢④の解釈があり得ます。もちろん、Gさんがイスラム教徒ではない可能性もありますし、たとえイスラム教徒でも、④以外の理由で行動した可能性もありますが。

イスラム教の教義に基づいてお話しすると、イスラム教では、賭博等の賭けごと、宝くじや銀行の利子のように、努力をせずに利益を生む行為は禁止されています。ビンゴゲームが賭け事やくじにあたるのか、という解釈についてですが、今回の事例では、500円という会費を集め、そのお金でビンゴゲームの景品を買うことが明確にわかっています。そして、1等の景品の魚類セットは明らかに500円よりも高額です。その差額分が努力をせずに利益が生まれたものと解釈される可能性があります。

ただし、ビンゴゲームの景品代としてではなく、歓迎会の食事代として会費を払い、プレゼントとしてビンゴゲームの景品を受け取る方もいますし、その解釈は時と場合、個人の考え方によっても異なるようです。イスラム教徒の方の中には、景品を賭けずに単なるゲームとして、ビンゴゲームを楽しむ方もいるそうです。なお、選択肢③については、イスラム教では魚類に関しては、サメなどの肉食の魚でない限り、食べることに問題はありませぬ。ただし、個人的な嗜好としては、この可能性もあり得るでしょう。

付録4. ムスリム文化アシミーター（改訂版）【場面4:露出の制限】の教示文、選択肢および解説

【場面4】

課題場面 ある日、サークルのメンバーで女子会を開くことになりました。開催場所は、マレーシア人留学生のEさんのアパートの部屋です。当日は、皆で料理を持ち寄って食べたり、話をしたりして楽しみました。部屋の中なので、みんな軽装になってくつろいでいます。Eさんも頭に被っていたスカーフを外し、部屋着に着替えて寝転んでいました。とても楽しかったので、「みんなで記念に写真を撮ってFacebookにアップしよう！」と言って、食卓を囲んで記念撮影をすることになりました。すると、Eさんがあわてた様子で「私はやめておきます」と言って、その場から抜けてしまいました。

- 選択肢**
- ①写真に日本の肉料理が写ってしまって、写真を見た人に、それを食べたと思われたくなかったから
 - ②留学中は遊ばずに勉強するように親から言われていたため、女子会の写真を親や家族に見られたいなかったから
 - ③スカーフを外した姿で写真に写りたくないと思ったから
 - ④Eさんは女子会につきあいはしたが、あまり羽目を外すことが好きではなかったから

どの選択肢の可能性もあります。マレーシアはイスラム教を国教としており、人口の6割をイスラム教徒が占める国です。教示文の中にEさんが頭にスカーフを被っていることが記されているので、Eさんはムスリムの可能性が高いでしょう。その点に注目した場合は、選択肢③が、Eさんが慌てた理由かもしれません。

解説 イスラム教では身だしなみに関して、成人ムスリムの男性はおへそから膝までを、女性の場合は顔、手首、足首から先以外の全身を、家族以外の異性の前で隠すことが望ましいとされています。そのため女性は、家の外ではスカーフを着用し、頭髪を隠しています。家族の前や異性がないところでは、スカーフを外しても問題ありません。今回の事例のEさんも、女子だけの集まりなので、スカーフを外して過ごしてもかまわないことになります。しかしながら、スカーフを外した姿を異性に見せるわけにはいかないので、写真を撮ってFacebookなどのSNSを通して、インターネット上で、その写真を異性に見られることを懸念したものと考えられます。

在日ムスリム留学生の中には、スカーフを外しているときには写真自体を撮らない方が多数いらっしゃいます。また、SNSを利用する際に、女性専用のアカウントを別に作って、スカーフを外した写真をプロフィールに設定したり、投稿したりして使い分けている方もいらっしゃいます。

【場面5】

課題
場面

研究室のメンバーで、大学の近くの居酒屋を予約して新年会をすることになりました。幹事をする
ことになったあなたは、出欠をとりました。すると、インドネシア人留学生のBさんが「私はイスラム
教徒なのでお酒が飲めません。なので、居酒屋での新年会には参加できません。」と言いました。あ
なたは、「あれ？」と思いました。なぜなら、あなたの研究室にはBさんの他に、CさんとDさんの2
人のイスラム教徒の学生がいるのですが、その二人は新年会に参加すると言ったからです。あなた
は、Bさんも同じイスラム教徒なのにどうして新年会に参加しないのか、不思議に思いました。なぜC
さんとDさんは参加するのに、Bさんだけが新年会の参加を断ったのでしょうか。

選
択
肢

- ①Bさんは、その日、他に用事があったから
- ②同じイスラム教徒でも、ソフトドリンクを注文して飲み会に参加する人や、お酒の匂いや酔ってい
る人を見るもの嫌だという人など、人によって飲み会への参加の判断が異なるから
- ③Bさんは、新年会などの、お酒を使って親睦を深める場に興味がなかったから
- ④イスラム教では、親睦を深めることを目的としたパーティーの場合は、禁酒を休んでもよいと認め
られているため、CさんとDさんは新年会を親睦会だと捉えて参加したが、Bさんは親睦の場である
とは思っていなかったから

解
説

イスラム教の教義ではアルコールの摂取が禁じられています。お酒を飲んで酔っぱらって、神との約
束、つまり信仰を忘れてしまうことを避けるためだと言われています。しかし、選択肢④の内容につ
いては誤りです。イスラム教では、禁酒に関してそのような決まりごとはありません。イスラム教徒
の学生は、しばしばお酒なしのパーティーで友人と親睦を深めています。今回の事例は、選択肢①や
③の可能性もありますが、Bさんの「イスラム教徒なのでお酒が飲めないため、参加しない」という
発言から考えれば、②の可能性が高いでしょう。

イスラム教では、信者が守るべきとされることがコーランに書かれています。その決まりごとを
どこまで守るかは、個人個人の考え方によって異なるようです。なので、イスラム教徒はみんな同じ
決まりを守り、同じように行動するという思い込みは捨てましょう。在日ムスリム留学生の皆さん
は、イスラム教に対してステレオタイプを持った日本人への対応に困惑することがしばしばあるよう
です。宗教的な実践は人によって異なるということを頭に入れておくとも良いかもしれません。